

稲作だより

～第4号 田植え直前編～

徒長に注意！健苗育成で初期生育を確保しよう！！

1 今後の気象と技術対策

- ・向こう1か月（5月10日～6月9日）の気温は高く、特に、5月14日頃からかなりの高温（5日間平均気温平年差+2.1℃以上）となる見込みです。
育苗ハウスを常時開放して温度を下げ、徒長苗とならないよう管理しましょう。

2 育苗期間中の水管理

- ・育苗後半は、苗が水分を多く消費するため、乾きやすくなります。
覆土や苗の様子をよく観察して、過乾燥にならないよう適宜かん水を行いましょう。
葉先に水滴がついていれば追加のかん水は必要ありません。
- ・朝のかん水後、乾いて追加のかん水が必要な場合は、昼ごろにかん水を行いましょう。
低温時や夕方かん水は、床土の温度を下げ根が酸素不足になり、根張り不良の原因となります。

3 田植えのポイント 《適期に適正な栽植密度で植えよう》

- ・収量・品質及び食味を安定させる**移植適期は5月15日～25日頃**です。移植時期が遅れると、初期茎数が確保できず収量が減少する例もあります。適期移植で初期茎数を確保しましょう。
- ・移植は天気の良い日に行い、低温や強風による植え傷みを防止しましょう。
- ・栽植密度は21株/㎡（70株/坪程度）、株当たり植込本数4～5本が標準です。
栽植密度が低いと茎数・穂数の不足、1穂粒数過剰による登熟不良、玄米タンパクの上昇等につながる場合があります。
気候変動に対応するために適正な栽植密度で茎数確保に努めましょう。
- ・適正な植え付け深は3cm程度です。
根が露出するような過度な浅植えは、除草剤の薬害が発生しやすくなります。
反対に深植えは、初期の分けつの発生を抑制し、根の発達も不十分になります。

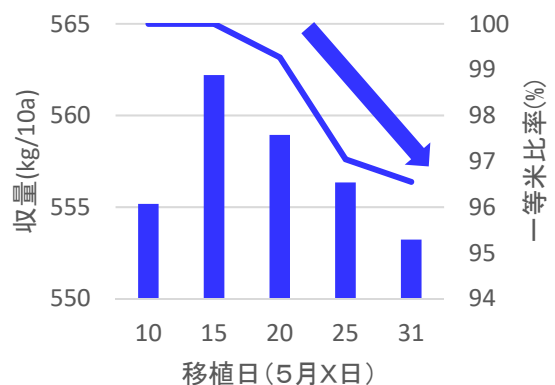


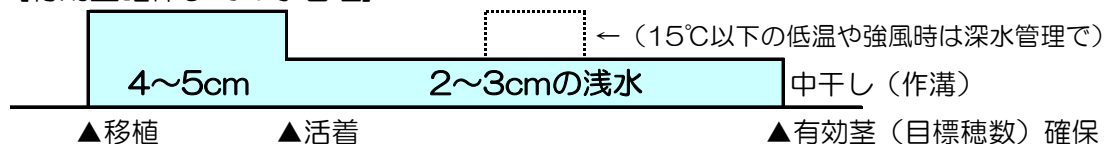
図1 移植日と収量・一等米比率の関係
(R6 つや姫チェックリストより)

トラクター等についた泥は、公道に出る前に落としましょう

4 田植え後の水管理 《活着を促す水管理を行いましょう》

- ・移植直後は、風や外気から苗を保護するため水深4～5cmとして、活着を促します。
- ・活着後は2～3cmの浅水とし、分けつの発生を促します。
- ・気温が15℃を下回る低温時や強風の時には、深水(水深4～5cm)とします。

[有効茎確保までの水管理]



- ・大切な用水なので、土地改良区等の情報を基に、適期・適正にかん水しましょう。

5 除草剤の適正使用 《使用基準、使用適期を守ろう》

- ・効果を高めるとともに、河川への成分流出を防ぐため、散布後7日間は止め水し、田面を露出させないようにします。

※田植同時処理を行う場合には、使用時期に「移植時」の適用がある除草剤を使用します。「移植直後」の適用しかない除草剤は、田植同時処理には使用できないので注意してください。ラベルを確認して使用しましょう！

6 葉いもち対策

- ・葉いもちの発生を予防するため、箱施用剤を忘れずに施用しましょう。
- ・取置苗は葉いもちの発生源となるため、速やかに撤去しましょう。

7 Agrilook®「適期作業カレンダー」を使ってみよう！

- ・「適期作業カレンダー」では圃場を選択して品種・移植日・移植時葉齢を入力することで、中干しの開始時期や出穂期等を予測できます。
- ・約4週間後までの予想も含む気温がこの予測に反映されるので、最新の情報をもとに、作業計画を立てることができます。
- ・詳細は普及課にお問い合わせください。

品種 : つや姫
移植日 : 2025/05/15
苗の葉齢 : 2.5枚

発育予測実行

1月6日現在の生育ステージ	出穂前218日頃
管理・生育ステージ	作業適期の予測結果
移植日	5/15
茎数を確認し、中干し開始を判断（8葉期頃）	6/22頃
穂肥適期	7/14～7/19頃
湛水（花水）に切り替え（出穂期3日前頃）	8/10頃
出穂期	8/13頃
斑点米カメムシ類防除（穂揃期）	8/16頃
斑点米カメムシ類防除（穂揃期後7～10日）	8/23～8/26頃
落水（出穂後30日以降）	9/12頃
刈取適期	

☆春の農作業事故防止啓発運動展開中（4月1日～6月10日）

地域ぐるみでSTOP！農作業事故！

【発行】 村山総合支庁北村山農業技術普及課 TEL0237-47-8634, 8635, 8636